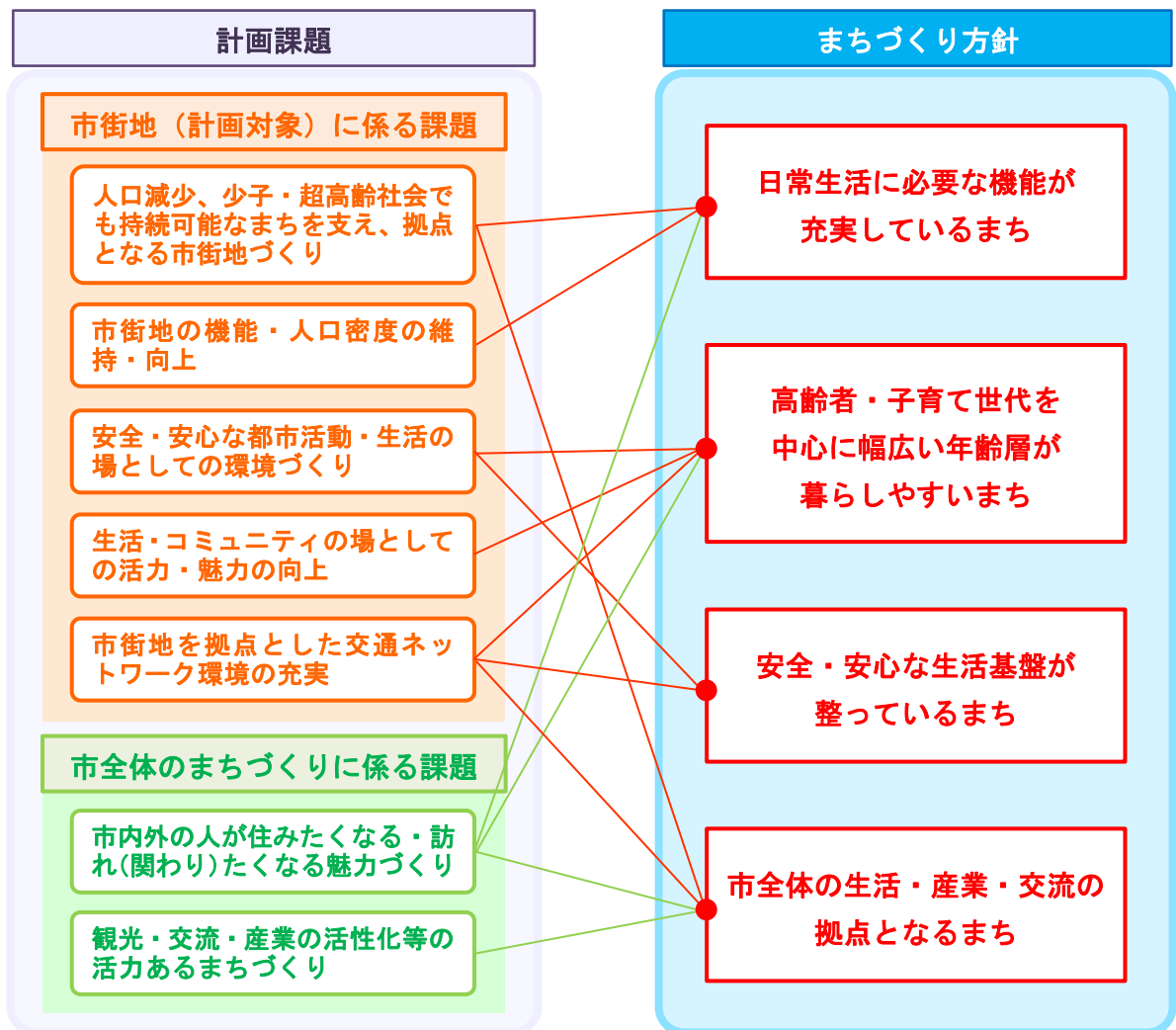


## 第2章 まちづくり方針

### 1. まちづくりターゲット

本計画は、本市のまちづくり課題を踏まえ、地域の特性を活かしたコンパクト・プラス・ネットワークにより、人口減少、少子・超高齢社会にあっても持続可能な都市づくりを目指すものです。

そのため、計画課題を踏まえ、本計画が重点的に対応する「まちづくりターゲット」を設定します。



#### ① 日常生活に必要な機能が充実しているまち

- 本市の生活するには十分であるという特性を維持するとともに、特別な買い物や娯楽等の不足する（物足りない）機能の充実や誘導を図り、市内でさまざまな活動が充足できるまちづくりを目指します。
- これにより、市全体の持続可能なまちづくりにおける拠点としての市街地の位置付けを強化するとともに、市街地の機能とその利用環境が整った都市構造を実現し、人口密度の維持・向上を図ります。

## ② 高齢者・子育て世代を中心に幅広い年齢層が暮らしやすいまち

- 人口構造の変化に対応した持続可能なまちづくりとして、市街地の高齢者への対応と将来を担う若い世代の誘導を目指します。
- 高齢者に対しては歩いて暮らせるまちや公共施設利用等の外出機会の増加などにより、健康寿命等さまざまな効果をもたらすことから、特に福祉環境の充実、市街地への居住誘導、公共交通等の移動環境の充実などを重点に、「高齢になっても暮らし続けられる」というニーズを叶えるまちづくりを目指します。
- 子育て世代に対しては、年少人口や就業者等を含めた若い世代の誘導にもつながるよう、子育てや教育関連の機能充実を図ります。

## ③ 安全・安心な生活基盤が整っているまち

- 近年の頻発化・激甚化する自然災害を踏まえ、生活や都市活動全般において安全・安心な都市環境の確保を目指します。
- 施設の立地や居住を誘導する際には大前提となる環境であることから、市街地内におけるハザードやインフラ等の防災機能確保を図ります。

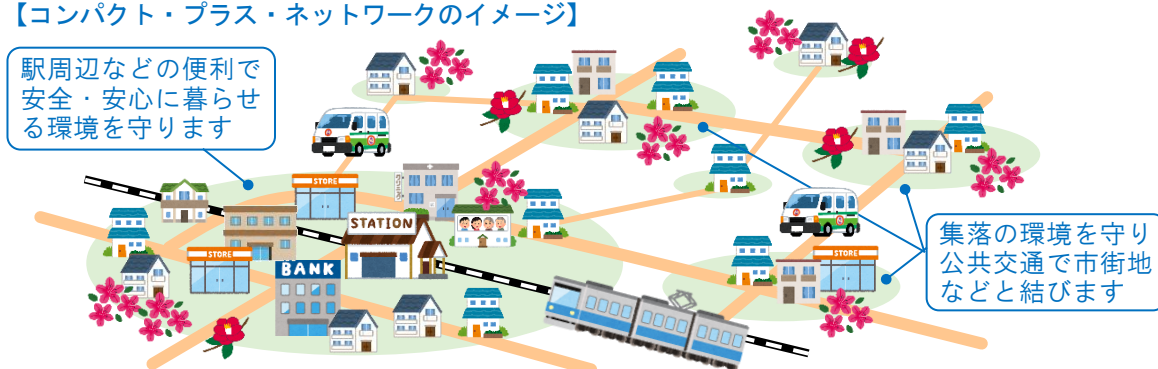
## ④ 市全体の生活・産業・交流の拠点となるまち

- 市街地において、安全・安心で便利に暮らせるまちづくり、商業をはじめとする経済活動の活発化、地域資源・施設・公園等を活かした活力・交流・魅力あるまちづくりなどにより、創生未来プランが目指す「暮らしの安全」、「来てもらう、住んでもらう」、「活力と魅力あるまちづくり」などを実現するための拠点機能の充実を図ります。
- こうした人を惹きつけるまちづくりにより、移住・定住促進や「やいたブランド」の魅力度の向上など、市全体のまちづくりを牽引する拠点としての市街地形成を目指します。

## 2. まちづくりストーリー

まちづくりターゲットの実現に向けては、本計画によるコンパクト・プラス・ネットワークの実現を前提とし、都市機能・居住の誘導と関連する施策を連動させながら取り組むことにより、市街地を拠点とした市全体の持続可能なまちづくりを目指します。

### 【コンパクト・プラス・ネットワークのイメージ】



### ① 誘導区域の設定と誘導支援策の充実

- コンパクトシティが目指す、駅を中心とした歩いて暮らせるまちづくりに向け、JR 矢板駅、JR 片岡駅を核として、生活を支え、利用したくなる機能の立地を誘導する区域を設定します。
- こうした誘導において、民間施設は経済性のもと撤退等の可能性があることから、民間への支援が充実した本計画の利点を活かし、施設の維持や新規立地を促進する支援策の充実を図ります。

### ② 既存ストックの活用

- 矢板地区・片岡地区の市街地における空き家・空き地や、公共施設再編に伴う跡地の利活用により効率的な都市機能誘導を図ります。
- しかし、中心市街地である JR 矢板駅西側では立地誘導の基盤となる土地利用促進が困難なエリアが見られることから、本計画におけるスポンジ化（市街地に穴が空くように空き家・空き地が発生する問題）対策や既存ストックの利活用促進策の活用を図ります。
- また、JR 矢板駅西の市街地の状況（空き家や細街路等による住環境や防災上の問題）を踏まえると、施設立地と合わせた道路などの都市基盤整備や面的な市街地改良などについても検討することが有効です。

### ③ 公共交通環境の充実

- 公共交通部門との連携により、市街地間、市街地と集落を結ぶネットワーク環境を充実させることにより、市全域の暮らしやすい環境を守ります。
- そのためには、市街地を目的とした移動を促進するだけの市街地環境の充実が不可欠であり、本計画と公共交通分野の連携強化による推進を図ります。

#### ④ 良好な交通ネットワークの活用

- 本市においては国道4号や東北自動車道による首都圏から東北地方を結ぶ南北の幹線道路が通り、その軸上に市街地が形成されているという特性を有しています。矢板地区周辺においては道の駅やいたや矢板北スマート IC が整備され、片岡地区においては矢板 IC に隣接するなど、広域ネットワークを活かしたまちづくりの条件に恵まれています。
- コンパクト・プラス・ネットワークにおいては公共交通の充実を図りますが、こうした本市特有の良好な道路交通ネットワークを活かし、広域都市連携を活かした市街地の活力づくりや交流人口・関係人口の誘導などを目指します。
- また、市街地周辺や集落においては自動車交通が主体となっており、市街地や各種拠点、広域交通網とのアクセスを形成するとともに、公共交通と共存した多様な手段による移動手段が確保された交通ネットワーク形成を図ります。

#### ⑤ 防災機能の向上

- 「矢板市国土強靱化地域計画」との連携を図りながら、安全なエリアへの都市機能・居住の誘導を図ります。
- 矢板地区の市役所周辺等に洪水浸水想定区域、片岡地区の一部に土砂災害警戒区域（特別警戒区域含む）が指定されていることから、市街地において想定されるリスクへの対策を踏まえ、誘導区域の設定においてはこれらの対策を併せて位置付けます。